

② すみよい環境

10 身近な交通

■交通事故から市民を守る

交通事故は、昭和五〇年代前半までは減少傾向にあったが、ここ三、四年はまた増加傾向を示している(図一)。とくに、自転車、オートバイの事故や若年者の無謀暴走運転による事故が多発しており、市民の交通安全意識の高まりと交通ルールの遵守が求められている。

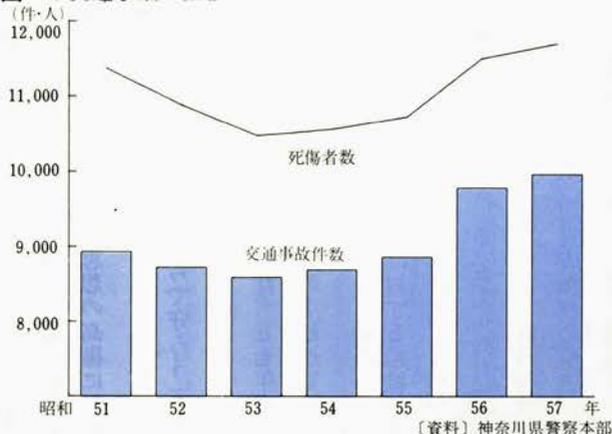
一方、交通安全施設の整備としては、歩行者の安全を期するため、歩道・ガードレールなどの設置により人車分離を行っている。すでに歩道については、過去四年間に三一九km設置し、市内総延長九〇八kmとな

っており、設置可能な道路についてはかなり整備されたといえよう。また、このほか道路照明灯や中央分離帯の整備も行っている。

■道路をより市民の身近に

道路を単に通行の用に供するものとして整備するだけでなく、歩きやすく楽しさと魅力ある道路にしていけることが、これから

図一 交通事故の推移



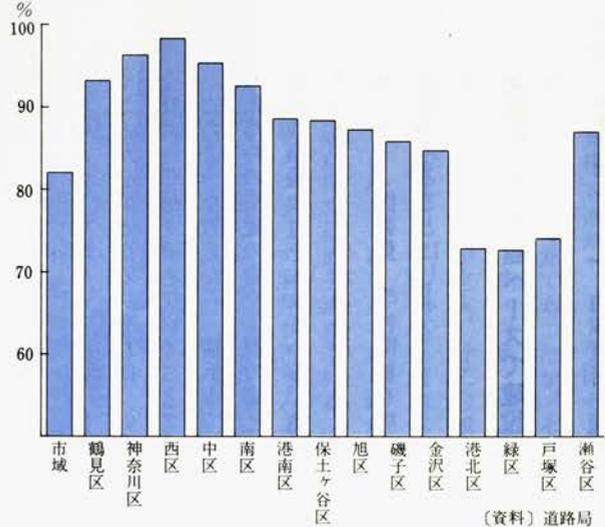
の課題の一つである。このため、電柱や標識などのうち歩行者の障害となっている物の移設を行っている。また、街路樹などによる道路の緑化、さらにはモールやプロムナードの整備も進めている。

また、障害者の人たちにも活動しやすい街とするため、「福祉の都市環境づくり」の一環として、歩道の段差切り下げや、主要な交差点については視覚障害者用誘導ブロックや音響式信号機の設置を推進している。とくに、歩道の段差切り下げは、高齢



ああ、放置自転車

図-2 区別道路舗装率



者や乳母車の利用者などにも役立っている。

歩きやすく、また運転しやすくするため、市民が日常利用する道路については、全面舗装をめざしている。舗装率は、過去四年間に六%強進み、五六年度末現在では八二・七%になっている。とくに、郊外区の舗装に重点を置き、緑区では一一%進み、戸塚・港南・港北の三区では七・九%進んだ(図-2)。



地下鉄利用者は1日平均13万人

最近の顕著な動きに、自転車やバイクの利用がある。通勤・通学のため、自宅より最寄駅まで利用する人が急増し、駅前に自転車やバイクが放置してある光景がよくみられる。駅前付近の放置は、歩行の妨げであり、また防災面、美観面などの問題もある。このため、自転車駐車場の整備には力を注いでおり、過去五年間をみると、一万八〇〇〇台分整備し、五六年度末の駐車場収容台数は二万二二〇〇台となっている。しかし、五六年一〇月の調査では、市内九六駅にわたり、五万二二〇〇台の自転車な

どが放置されており、その対策が課題となっている。

■「市民の足」をより便利に

市バスについては、年間一億七〇〇〇万人近くの利用客数を維持している。とくに、交通混雑のなかで、ダイヤ通りの運行を確保し、市民の利便に供するために、バス専用レーンの設置など各種の方策を行っている。

また、終車時刻の延長やターミナルの上屋設置などバス待合施設の改善も行っている。バス車両の改善も進めており、暖房化は五七年度でほぼ全車両実施し、冷房化は五四年度から逐次実施している。

地下鉄については、開業一〇周年を経過し、現在営業している区間は横浜上永谷間(延長一・五km)である。乗車人員は一日平均一三万人に達している。さらに、六〇年春の開業をめざして、横浜新横浜、上永谷戸塚間を建設している。

このほか、五四年には横浜線十日市場駅が、五五年には横須賀線東戸塚駅が開設され、周辺市民の利便性は飛躍的に向上した。